

「ジャパン・クオリティ」

お客さま、こんにちは。サマーランクの新洋技研工業です。いきなり真夏を思わせる暑さになったと思ったら一転して肌寒い日になるなど、とかく体調を崩しやすいこの頃ですが、いかがお過ごしでしょうか？

地震や噴火なども相次ぎ、この度の噴火で避難を余儀なくされている方々は本当にお気の毒です。一日も早い終息と皆さんが安心して帰島できることを願うばかりです。

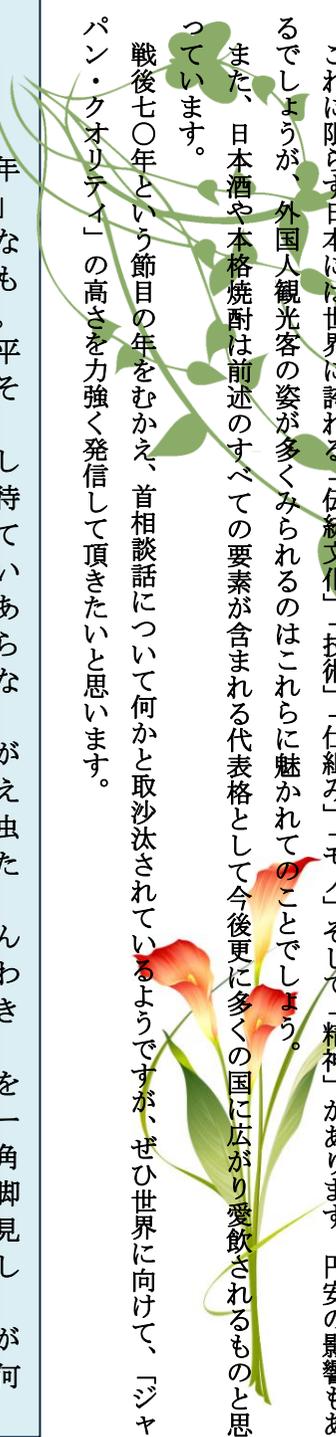
さて、とある国のホテルでのことです。チェックインを終えて部屋へ入り、エアコンをつけようとスイッチを入れたところウンともスンともいわず、カードキーの差し込み方が悪いのかなと思つてやり直しを試みただけダメ、そこへスリーケースを運んで来てくれたホテルマン、エアコンのスイッチが入らないことがわかり「オーケーオーケー」と言つて私にここで待てというようなしぐさをして出て行ったので待つていたところ、5分たち、10分たち・・・何の連絡もなく誰も来ない。おかしいな、あのゼスチャーは待つていろということではなかったのかしら？？と思ひ、仕方なしにフロントに電話をして「〇〇号室だけど、エアコンが動かない」と言つたのですが、それでも何のアクションもなし。部屋の中には暑くて汗がダラダラ。しびれを切らしてフロントへ行き、「エアコンが動かない、部屋を変えて！」そこでようやく動いてくれたのですが、まずは本当に動かないのか確認に行くところからはじまり、結局チェックインをしてエアコンが動かないことがわかってから部屋チェンジが完了するまで実に40分近くかかりました。

宿泊料は物価が高いこともあり平気で都心の高級ホテルの通常料金なみ。ホテルマンたちの態度が悪いのかと言えば決してそういうわけではないのですが、日本のホテルサービスの質の高さをあらためて認識させられました。

これに限らず日本には世界に誇れる「伝統文化」「技術」「仕組み」「モノ」そして「精神」があります。円安の影響もあるでしょうが、外国人観光客の姿が多くみられるのはこれらに魅かれてのことでしょう。

また、日本酒や本格焼酎は前述のすべての要素が含まれる代表格として今後更に多くの国に広がり愛飲されるものと思つています。

戦後七〇年という節目の年をむかえ、首相談話について何かと取沙汰されているようですが、ぜひ世界に向けて、「ジャパン・クオリティ」の高さを力強く発信して頂きたいと思ひます。



日本の野鳥シリーズ アマツバメの荒技

技術営業部 佐藤 弘

ラジオの夏休み子供科学電話相談を聴いていた。小学校高学年男子の「アリンコを2階から落してもケガをしないのはなぜ？」の質問に、回答者は即座に要点を三つにまとめた。即ち、骨がないぶんアリは外殻が丈夫にできていること、しかし体重はとても軽く、そして空気には粘性があるから空気抵抗を受けることだ。それで落下速度は極めて遅いので軟着陸してケガをしないと、平易な言葉で説明していた。ゲームに熱中する年ごろの少年が、そんな好奇心を抱くことにほのぼのした気分になった。

羽アリやカゲロウなど飛翔力が弱そうな羽虫類は、ちょっとした風にコントロールを失い飛ばされるのだろう。それを上空で待ちうけているのが本種やイワツバメなどだ。しかし、虫を追って沢山の鳥が乱れ飛ぶのに、衝突して墜ちたなど、見たことも聞いたこともない。鳴き交わす様子からして衝突防止のルールでもあるのか、それとも臨機応変に回避するのか。それにしてもこれらの種が存続できるほど虫が多いということは…。もしも鳥がいなければ、という状況は想像したくない。

本種の翼は草刈り鎌の刃のように湾曲した独特の形だ。これが降下気味に加速滑空すると、スピードは時速150kmを軽く超えるらしく、シューと空気を切り裂く音が聞こえる。もちろん、虫を捕る際にはそんなスピードはまったく必要なく、数回の羽ばたきとゆっくりした滑空を繰り返している。

本種は海岸や山の断崖がヒビ割れた中に営巣するという。そんな環境なら天敵のヘビは近づけないし、カラスにヒナや卵が狙われる心配も無さそうだ。さらに造りは頑丈であるから、雨が吹きこまない場所はこの上ない好物件だろう。

本種の帰巢は、まったく減速しないまま巣穴に飛び込むことを知識としては知っていた。最近その映像を見てたまげた。スローの映像では、左脚の後趾（後ろ向きの指）一本の爪を入口の岩角に引っ掛け、脚が伸びきる5cmほどの制動距離で急停止した。脚がもげそうなくらいにGが作用すると思う。右脚は体に隠れて見えなかったが、おそらく前方に突き出して突っ張り棒の役目をして、衝撃に耐えていたのではなからうか。

飛行中の鳥は、ホバリング体勢で充分減速してから停まるのが普通なのに、アマツバメが激突のような急停止をする必然性は何か、どんな利点があるのか、どう考えても分からない。

事業サポート・新規事業PJ 山本 知男
今年も健康診断がありました。私にとっては不健康診断結果が出る困った時期です。人間年取れば大なり小なり、どっか悪いところはあるもので、何も無い健康そのものなんて人はいない！と力説するのですが、うちのママさんには通用しません。しばらく禁酒命令が出ます。人間5~60年も生きていれば、ストレスは溜まるし、美味しいものを食べれば糖だのコレステロールだの、γGTPだの、尿酸値だプリン体だ、誰だって溜まるでしょ。貯まらないのはお金だけ。まあストレス溜めないとか運動するか量を減らすとか努力はしているよって、いろいろと弁明するのですが、やはり結果は良くなるわけない。しばらくほとぼりが冷めるまでは大人しくするのがこの時期です。

この定期検査が大事と言うのが機械にも言えて、特に最近ではフロンガス排出規制法で冷凍機の点検が義務付けられました。使用者の責任においてフロンガスが漏れないよう機械を点検しましょうと言うものです。現在は温暖化とか紫外線とか徐々に意識が上向いて来ていますが、ちょっとぐらいたったら良いんじゃない的な感覚もあるでしょうが、そのちょっとが溜まってきて大きな病になる。成人病と同じです。違うのはこの悪玉が自分に返って来るのではなく、私達の子や孫に返って来る事。将来、大きな影響を受けるだろう、それを防ぐために今からでも整備を始めましょうと言う事ですね。

弊社のサーマルタンクは冷凍機を搭載してまずし、冷房や空調等で冷凍機はもう欠かせない機械となっています。これを長く安全に使って頂くためにも点検が必要で、弊社でもお手伝いやアドバイスなど準備しているところです。でも基本は自分の体の事は、自分で知っていなければいけないし、管理しなければいけない事です。私も健康診断前後だけ大人しくするのではなく、日々気を付けなければと反省しつつ、この文を書いています。でもこれはうちのママさんには見せられないな(^^)

ここ2,3年だと思のですが、当社がこれまでにいただいていたご相談とは異質なご相談をお客様からお受けするようになってきたように感じています。

内容としてはこんな感じ(ディテールは各社各様ですが…)

実家に戻って〇〇年、ようやく会社の業績も安定してきた。帰郷したころは300石くらいだったが、現在では800石を超え、まだ行けそうな気がする。

ただ、蔵での作業性がものすごく悪く、人員配置も考え直す時期に差し掛かっているような気がするが、どうして良いか分からない。

増石に対応するにしても、期間を延ばすべきなのか、一仕込みを大きくするのか…。

前者なら空調設備の新設・増強が不可欠になってくるし、後者だと麴室のキャバがオーバー、ヤブタも小さい気がする。

冷蔵庫もいっぱい、これ以上敷地内への冷蔵庫の増設は難しい。そもそもビン爛が体力的にも難儀になってきた。でもタンク火入れってしたことないし、品質的にビン爛よりも良くないって聞いているし、どうしたものでしょう…。

生産量の増大に伴い様々な工程で不具合が生じ、効率や品質で問題が起こりつつある、どこに相談したものか分からずに連絡しました、ということのようです。

私が担当する、中堅規模のあるお蔵の社長さんから次のようなお話を伺ったことがあります。

200石を400石、600石にするのは簡単、2倍、3倍働けばいいんだから(個人的にはそれはそれで簡単でないと思うのだが…)

でも800石を超えようという段になってくると、手数だけで勝負できなくなる。「仕組み」から変えていかないといけない。

それをその方は「ギアを変える」と表現されました。

1速でアクセルを踏み込んで、出るのは20km/hがせいぜいでしょう。100km/hを目指そうとすれば、おのずと2速、3速とシフトアップしなければならない。自分の中で臍に落ちた言葉でした。

私自身、実務として清酒の製造計画を立てていた人間ですので、500石が1,000石になれば蔵で何が起こるのか、具体的な米の払出予定やタンク繰り表を作成したうえでご相談に応じています。

「今、ギアを変えるとき」とお考えの皆様、どうぞ弊社に一度お声掛けください。最終回答は導き出せずとも、ヒントになる情報はご提供できると思います。

手術実況中継 痛かった

エッセイ

生産部 島貴 修一

午後1時30分、頭皮下腫瘍(と治療計画書に書いてあった)の摘出手術が始まった。

手術台の上で左向きに横になり、青いシートを被せられたが、隙間から室内の様子が見える。局所麻酔注射3回の後に冷たい液体を塗っている。消毒しているな。さあ切られるぞ。

ピリピリピリとした痛みが2回あり、次に皮膚が突っ張られるような感覚がある。メスで切って鉗子で切り口を開いているんだな。鋭い痛みが続けて来る。正常な組織と腫瘍の間に少しずつメスを入れて、切り離しているな。ストローで水を吸うようなズズーっという音がして、目の前でぶらぶらしている透明チューブの中を、泡混じりの赤い液体が流れていく。出血を洗い流し吸い出しているな。室内にポンポンポンと連続音が流れている。あ、自分の脈だ。血圧も心電図も血中酸素濃度も表示されているはず。

麻酔の効きが悪く痛みを耐えているが、それ以上に耐え難いのが身体の下側になって圧迫されている左頬と左肩と二の腕の痛みで、苦痛のため時間の経過も分からない。「もう直ぐ終わりますよ」と看護師さんの声に「はい」と返事しながらも、ただひたすら我慢するのみ。やがて耳元で糸を引っ張るような音が聞こえ、ズキンズキンと断続する痛みを感じる。切り口を縫っているから、もう少しの辛抱だ。

「はい、終わりました」の声でシートが外され、手術台に横向きに腰掛ける。時間を聞いたら午後3時55分と言われ、我慢と忍耐の2時間半だった。しかしこのあと手術後の患者の容体を見る部屋で、看護師さんに監視されながら、2時間の絶対安静と点滴を強いられたのも辛かった。喉の渇きと空腹、そしてテレビが無い!